

fidata HFAD10-UBX の導入(15)

—DVD 再生(3)—

1. はじめに

前報(9)に引き続き、DVD 再生の音質を評価します。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりで、HFAD10-UBX を PC に繋ぎ替え、PC の再生ソフト Any DVD により再生します。

HFAD10-UBX→PC→Sonica DAC

試聴対象の DVD は、PANASONIC の BD レコーダー DMR-UBZ1 でよく聴いている下記のものとなります。

TDK TDBA-0043

ベートーヴェン 交響曲第 3 番変ホ長調 《英雄》
クラウディオ・アバド指揮ベルリンフィル

TDK TDBA-0044

ベートーヴェン 交響曲第 6 番へ長調 《田園》
ベートーヴェン 交響曲第 1 番ハ長調
ベートーヴェン 交響曲第 8 番へ長調
クラウディオ・アバド指揮ベルリンフィル

TDK TDBA-0034

バッハ カンタータ 61 番 BWV61
カンタータ 147 番 BWV147
マニフィカトニ長調
ニコラウス・アーノンクール指揮ウィーンコンツェントゥスムジクス

GENEON GNBC-4037

ハレルヤ (クリスマスに聴きたい祈りの音楽)
ケネス・モンゴメリー指揮カンタベリー大聖堂聖歌隊

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

上記の DVD は、いずれも 1990 年代後半からのデジタル収録ですので、位相反転は試みません。再生条件は前報(9)の経験を活かして踏襲します。

以下のアバド指揮ベルリンフィルのベートーヴェンの交響曲の二つの DVD は、2001 年のローマのサンタ・チェチェリア音楽院ホールでのライブ収録です。

アバド指揮ベルリンフィルのベートーヴェンの交響曲第 3 番は、この頃はアバドがベルリンフィルの音楽監督の時代で多くの演奏を残しており、アバドとベルリンフィルの黄金時代の演奏という感じで、オーソドックスでいかにもベートーヴェンはこうであるという演奏です。

アバド指揮ベルリンフィルのベートーヴェンの交響曲第 6 番、第 1 番、第 8 番も、一連のベートーヴェンの交響曲の収録の一環です。第 3 番と同様、ベートーヴェンの交響曲のお手本のような演奏で、ベートーヴェンの時代ごとの作風の推移がよく分かります。このころはデジタルコンサートホールの始まる前でしたので、DVD を購入し、マランツのユニヴァーサルプレイヤーで楽しんでいました。こうしたものが、HFAD10-UBX と PC で生き返ったように再生出来ることはありがたいことです。

アーノクール指揮ウィーンコンツェントゥスムジクスにバッハのカンタータやマニフィカトは、2000 年の教会のライブ収録です。ソリストの歌唱は力強く明晰で、教会内の残響もしっかり捉えられています。オーケストラの楽器は古楽器のようで、その質感は明瞭ですし、通奏低音も量感が十分で明瞭です。

カンタベリー大聖堂聖歌隊の聖歌集は、画面が狭く、画質も音質もよくなく、モノラルの音声のように聴こえますので、アナログ TV 時代の収録をデジタル化したもののように感じます。合唱の分離はよくありませんが、ソリストの歌唱は力強く、このことからモノラル収録のように感じます。

4. まとめ

PC と HFAD10-UBX と Sonica DAC の組み合わせで、Any DVD による DVD 再生は、DVD ソフトの再生の良さを改めて感じさせました。

以上